

「トピックス」 令和7（2025）年度

第15回 郷土を愛し、未来を拓く

～安芸太田町中学校での「総合的な学習の時間」の実践～

先日、県立加計高等学校の発表会に参加しました。発表会では、高校生が「総合的な探求の時間」と「国際交流」の実践について威風堂々とプレゼンする大きな姿とともに、中学生が「総合的な学習の時間」の取組を懸命に伝えようとする初々しさが心に残っています。そこで、今回のトピックスでは、中学校の「総合的な学習の時間」の取組を、皆さんに紹介します。

年齢の高い方にとっては、「総合的な学習の時間」という言葉自体がなじみのないものでしょう。総合的な学習の時間は、平成14（2002）年度から小中学校で本格導入されました。その背景には、知識偏重からの脱却と、変化の激しい社会に対応できる力の育成が求められたことがあります。平成10

（1998）年の学習指導要領改訂で制度化され、「自ら課題を見つけ、主体的に学ぶ力」を育むことが目的とされました。地域や国際理解、福祉、環境など多様なテーマを扱い、探究的な学びを重視しています。

本町中学校の「総合的な学習の時間」は、地域そのものを教科書とし、ふるさととともに子どもたちが成長していく、本町教育の象徴的な取組です。それは単なる調べ学習ではありません。地域の自然、歴史、人の営みに真正面から向き合い、「この町の未来をどう創るか」を自らに問いかける、真剣で温かな学びの時間です。

具体的には、1年次「発見・観察」、2年次「参加・体験」、3年次「深化・解決」へと続く3年間の体系的なカリキュラムを編成しています。はじめは地域の魅力に目を輝かせる「発見者」として。やがて地域活動に関わる「参加者」として。そして最後には、町の未来を語る「提案者」として。子どもたちは段階的に視野を広げ、確かな自信を育んでいきます。

加計中学校3年生は、「将来、大人になったときに戻ってきたいと思える町づくり」をテーマに探究を重ねました。観光ツアーの企画では、アンケートをもとにモデルコースを構想し、町の魅力をどう伝えるかを真剣に議論しまし

た。木工班は町産材を活用した体験活動を考案し、地域資源の価値を再発見しました。SNS 発信班は若者の感性を生かし、新たなキャラクターやデジタル発信に挑戦しました。そこには、「自分たちの町を、自分たちの力で元気にしたい」という、まっすぐな思いがあふれていました。

安芸太田中学校 1 年生は、フィールドワークを通して地域の“本物”に触れています。ガイドブックには載っていない伝承や、人々の語り、自然の匂い、音、風景。五感で受け止めた体験は、教室の学びと結び付き、深い理解へと変わっていきます。さらに、ギガ端末を活用して制作したパンフレットは道の駅に設置されました。自分たちの学びが地域を訪れる人々の手に取られる。その瞬間、生徒たちは「社会の一員」としての誇りを実感しました。

この総合的な学習は、子どもたちに問いを持つ力、協働する力、そして最後までやり抜く力を育てています。何より、ふるさとを愛する心を静かに、しかし確かに育んでいます。

子どもたちのまなざしが変われば、町の未来も変わります。安芸太田町教育委員会は、地域とともに歩むこの学びをこれからも大切にし、郷土を愛し、未来を拓く子どもたちの成長を力強く支えてまいります。

安芸太田町教育委員会 教育長 大野 正人